

# 街

支部だより 2014. No. 2

「本部青年委員会主催 建築士の日イベント  
札幌支部担当 ～お家の間取りを考えよう～ 参加者の作品より」



北海道建築士会札幌支部

# 新役員・委員長 就任挨拶

## 支部長再任挨拶

支部長 鈴木 基 伸



本年1月29日、当支部は役員改選などの重要案件を議題として総会を開催いたしました。

私は本総会において皆様のご推挙をいただき、引き続き非才ながら支部長としての重責を担うこととなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

改めて昨期の建築士会の動向を省みれば、種々の変革が訪れた二年間だったと思います。

新法人への移行は申すまでもなく、近隣二支部との合併・統合（江別・当別）、事務局の再度の移転など大きな変化がありました。これらの案件に取り組み、迅速な処理にご理解とご協力をいただきました多くの会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

さて、このように組織全体が忙しい中、実行委員会活動においては従前にも増し若い会員の活躍とも相俟って大きな成果が挙げられました。我々の目標とする社会貢献や自己研鑽、行政等への協力、種々の啓発活動などがそれにあたります。

今期においてもそれらの活動が滞ることなく進捗することを願ってやみません。

いま一度改めて世情をふりかえれば、団塊世代の大量退職が私たちの組織に大きな影響を及ぼしていることが実感されます。我が支部・本部はもとより全国的にも会員の減少はなかなかとまってはくれません。本部においても特別委員会を立ち上げて日々会員の増強策を練ることが重要な活動であり、また道内各支部を4ブロックに分けそのブロックごとの地域活動も行われております。1・2級建築士の受験者数の減少も悩ましいところです。

さらに付言すれば、ややもすると忘れがちになる一連の士法等改訂のきっかけともなった構造計算偽装や資格詐称事件は、市民に対する不信感がぬぐい去られた訳ではありません。

士会連合会は他の建築関連団体とともに国政レベルでの協議を現在進行中であります。

大きな問題が山積する現況ではありますが、我々は初心を忘れることなく前進することが肝要と考えています

総会においては、士会所期の目的を遂行するための実践活動予算の重点配分に関して、皆様の御承認をいただきました。さらに活性化される活動に大きなご支援をお願いするところでもあります。人不足、物不足の昨今、会員の皆様のご健康とますますのご活躍を祈念して再任の挨拶とさせていただきます。

## メリット感



副支部長 長谷川 敏 文

今年の札幌の夏はどうなのでしょうね。適度に雨が降り適度にさわやかな風が吹き、適度に暑かったら良いのに…などと、季節をぼんやりと眺めているかのごとく「建築士会に馴染んでいる」と感じています。生活の一部という位置付けでもなく、組織からの何らかの影響・利益を受けているわけでもなく、極めて特別有利な情報を得ていることでもないのですが、昭和57年からの丸32年間の在籍の理由は「どうやら居心地が良い」ということなのでしょう。

札幌支部800人、全道4,500人の「建築士の志」のある仲間が存在しているというだけで、数字とか目標・目的とか或いは達成度のような評価指標には置き換えられない「よくわからない安心感」があるような気はしています。

札幌支部の実行委員としての具体的な活動には、営利目的の会社に在職している会社員では定年までに絶対に経験することがないような市民

(非営利) 的なものから、地下街イベントへの呼び込み・ティッシュ配り、息子の嫁の愚痴を聞かされる住宅相談、大学・超一流企業に出向いての講師の依頼、ビールパーティーのためのミュージシャンとの出演交渉、自ら抽選会の司会者、など様々あります。これらの活動が与えてくれるものは、常に利益と成果を求められている仕事では決して感じるこのできない、緊張(わくわく)感と期待と冷や汗。

建築士会の活動には、目標から外れ、ちょっとくらい失敗したとしても、それらを超越した達成感の味わいがあり、視野が狭くなりがちな設計業務の気分転換にはなるし、人間関係のイライラや仕事上でのスランプを解消するのに大いに役立っています…ゴルフも、かなり役立つのですが(^O^)…

それ(会費)以上に得た大きなメリット(財産)は、実行委員の活動を通して一緒に汗を流した仲間たち

との信頼関係です。結果が良かった事ばかりでもないし、こちらの勝手な思い込みが先行して都合良く行かない場面だって多々ありましたが、その都度みんなで知恵を出し合い、ビールを飲みつつ熱い議論もして、結果として「何とかなった」という成果が強い仲間意識(チームワーク)感に大きく影響しているのでしょう。

そんな仲間と共に、会員の皆様が建築士会を通して必要なものを、速やかな情報として提供できる最善の方法を探り続けていきたいと考えていますし、会員の皆様にも、ぜひ実行委員としての具体的な活動に参加していただき、メリットを味わってほしいと思います。とくに、ここ2~3年の間に新規で会員になられた方で、会社での長~い辛~い会議に飽き飽きとしているとか、同じことの繰り返しで頭がピンキオになりそうでしたら、実行委員として札幌支部の建築士会活動に参加してください。明るくて元気な方、心よりお待ちしております。

## 副支部長再任挨拶



副支部長 池 田 浩 司

この度、札幌支部の役員改選期にあたり鈴木支部長の下、引き続き副支部長を仰せつかりました。

前期に於いては、総務委員会、まちづくり委員会そして青年委員会を担当させていただきましたが、あまり力になれず反省の多い任期を過ごしてしまったような気がします。

昨今の経済情勢は、アベノミクス効果なのか景気情勢は少し上向ってきている様に見えますが、消費税U

Pにおける今後の影響を考えると一概には良くなるとは言えないような気がします。また、建設業界を取り巻く環境も、一言でいうと「人出不足」があらこちらで言われており、思うように建設が進まない、発注ができない等の状況も発生しています。この人出不足の要因には、先程の消費税UP前の駆け込み需要や東北大地震の復興事業の本格化、そして今後は東京オリンピック決定の影響が

出てきているようです。しかしながら根本的要因は少子高齢化の影響が大きく、さらには若者の技術職離れが大きな問題となっています。

このような中、建築士会に於いても建築士資格者の年代別構成を見てもみまると60歳以上の方が半数以上を占めおり、特に団塊の世代の方々が社会活動から離れて行く時期となり、会員数の減少に歯止めが利かない状況が一層濃くなると予想されます。

札幌支部に於いては、一時官庁関係からのCPD登録者の要求が強まったことにより、少しは減少の歯止めがかかったかのように思えた時もありましたが結果的には減少が進行中です。

会員減少の改善手法として入会率のUPを図ることを意識し工夫し努力していくことが肝要と思います。現在全体の有資格者の内、建築士会員数は20%台（正確な数値は未定）でしかありません。しかし、逆に言うともまだ80%近くの方々が入会でき

るということですので、会員外有資格者の呼び込みを強化していく必要があります。それには、今後の士会活動のあり方を工夫し、有資格者等を引き寄せる原動力となる活動と会員のための活動を強めることによって、新たな会員の増加につながるのではないかと確信しております。

今年の私の担当委員会としては、昨年同様の総務委員会の他、新たに専攻建築士委員会を受け持つことになりました。総務委員会では、前段

でお話をしていた会員増強の話が活発化になると思います。専攻建築士委員会では、建築士の資質の向上に向けた活動や勉強会が活発で、まさに建築士のための活動が行われていると思います。また、他の委員会も同様に社会的役割を担った活動が行われております。私はこれらの活動に対し、微力ながら皆様方とともに楽しく有意義な活動となるよう努力したいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## 副支部長就任あいさつ

副支部長 井 上 勝 己



この度、副支部長を仰せつかりました北海道日建設計の井上です。職場では理事・管理建築士、監理室長、設計室長、設計技術室長を兼務しています。よろしくお願いいたします。

副支部長の役割の一つとしてまちづくり委員会の担当をさせていただくことになりました。現在、本部の常務理事としてまちづくり委員会の担当をしておりますので支部と本部の連携が強化され会員皆様の何かのお役に立てれば幸いと思っております。

### 建築士会とのかかわり

私の建築士会デビューは約30年前です。当時の会社の上司であります元佐藤隆次会長、吉田宏先輩から本部青年委員会に出席して来いと言われたのが建築士会とのかかわりの始まりです。わけの分からないまま私の建築士会活動が始まりました。当

時の青年委員会の主なメンバーは、前須藤会長、高野会長、鈴木副会長、吉木副会長のみなさんでした。『酒豪の集団か！』が最初の印象です。

いままでの主な士会活動は本部の活動が多く青年委員会、会誌委員会、総務委員会です。総務委員長の時が会員の皆様と最もかかわりが多かった時期と思います。

### 大きく急速に変貌する職場環境

のんびりしているとあっという間に取り残されてしまう厳しい職場環境になりました。消費者（お客様）の目も厳しくなり常に自分の技術力をバージョンアップすることが必要になっています。建築士の責任は明確になり曖昧な対応が出来なくなりました。関連法規の改訂頻度も多くなり常時アンテナを出し情報収集をしていないと思わぬ事故に遭遇して

しまいます。罰則は益々厳しくなり最近の建築士免許の罰則はまるで運転免許証の様になりました。

40年前の入社当時は製図版とT定規が商売道具でしたが現在はA4版のノートパソコンが有ればどこでも仕事ができるようになりCADは2次元から3次元に移行しています。

### 建築士会は『宝の山』

そのような厳しい環境の中で志を同じくする仲間の集団であります建築士会は人や情報の『宝の山』ではないでしょうか。まだ、発見されず原石のままのものがたくさんあります。会員皆様が建築士会で宝物を発見し磨いて活用し達成感に満ちた建築技術者人生を謳歌することを願っております。

そのために少しでもお役に立てれば幸いです。

## 副支部長就任挨拶

副支部長 内 海 純 一



今年から大役を仰せ付かり、鈴木支部長の下副支部長4人体制の一員

となりました。サッカーの審判員に第4の審判員というのがいます。主

な任務は主審の援助を行うことだそうです。鈴木支部長を補佐し、支部

活動が円滑に行われる様お手伝いをさせていただきますので宜しくお願いいたします。担当する委員会は事業委員会と古巣の情報委員会です。両委員会とも10名ほどの少数精鋭で纏まりのある委員会で、今年から新委員長さんが采配を振ります。新しい支部機構では7委員会のうち5委員会の委員長さんが交代し世代も若くなります。若手建築士の方々には楽しんで活動して頂けるチャンスでもありますので、本業での柵とは全く別の建築士会で人脈や情報を広げて頂きたいと思います。

職場の机の中に支部ニュース STREET を綴じたファイルがありました。平成26年6月号で vol. 218。年12号ですから18年と少しの長きに渡って支部が作ってきた会員さんの為のニュースです。ファイルの奥に綴じられていたのは vol. 13、平成9年3月発行の号でした。私が当時の広報委員会（現在の情報委員会）に初参加させて頂いた時の号です。当時の STREET は頁が左右の2段組で札幌支部事務局は札幌市建築指導部内と記載されています。その住所が指導部内から vol. 120（平成1

8年4月号）で緑苑ビル3Fに移転、その5年後 vol. 186ではヒューリック札幌ビル4階に、そして vol. 201（平成25年1月）から現在の大五ビルへと17年で3回の引越しをしました。STREET の構成や事務局の住所が移り変わってきた様に各委員会構成やメンバーも変化をしてきましたが、めまぐるしく変化する技術や法令等の社会状況に追従する為の情報発信や講習会の開催など、建築士会の役割は変わりません。皆さんのご指導とご協力をお願いいたします。

## 総務委員長再任にあたり

総務委員会 委員長 西 岡 誠



総務委員長として皆様のご助力を賜りながら、何とか一期目を務めさせていただきました。大変ありがとうございました。引き続き総務委員長として務めさせていただくことになりました。今後ともお力添えのほど、よろしくお願いいたします。

さて、3Dプリンターが第三の産業革命をもたらすといわれていますが、建築の作図という行為も、2次元の図面の世界からコンピューターによる仮想3次元の世界に変わろうとしています。これは以前の製図版

での作業が、CADによる製図作業に置き換わったことと同様の必然的な流れになると思われます。そう遠くないうちにCADはBIMに変わり、3Dプリンターの利用もカラーコピーを利用するのと同様のごく当たり前のことになるでしょう。こういった新たな時代の動きにも、必要で有意義な情報を会員の方々に発信できる建築士会でありたいと思っています。そういった情報発信が皆様のお役にたつことにより、支部組織の強化と運営の活性化という総務

委員会本来の役割につながると考えております。

BIM自体は今年から事業委員会の所掌となりますので、総務委員会としては新たな建築界の動きに目を向けていきたいと思っています。

建築士会を通じて会員の皆様のお役にたち、建築士会が活性化することにより、建築士自体の地位向上に向けて微力でも関わられたらと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

## 総務委員会副委員長就任にあたり

総務委員会 副委員長 工 藤 美智子



総務委員会は、今年度より副委員長3名体制となり、女性小委員会担当を仰せつかりました。この小委員会は、女性会員活動だけにとどまらず、女性発の企画で建築士会を活性化させていこうというものです。

今まで、本部女性委員会活動と連

携させた動きが取りづらく、せっかく札幌市内・近郊での事業も札幌支部会員の皆様へ、広くお知らせ・お誘いする機会があまり無かったように思います。今後は、積極的に広報させていただきますので、これはと思う行事がありましたらご参加くだ

さい。

又、女性会員に限らず、札幌支部内での会員同士の親睦を深めると同時に、今まで建築士会活動に関心の低かった方々との接点を増やす役割も担っていければと考えています。

支部独自事業として、昨年は『和

の空間と抹茶を楽しむ』というセミナーを開催し、10名（内男性1名）の参加をいただきました。札幌生涯学習センター「ちえりあ」のお茶室を会場に、初心者向けの簡単な作法を教わりながら、お茶とお菓子をおいしくいただき親睦を深めました。

本年は、4月12日に『避難所HUG』研修会を行い、災害時避難所を運営する立場になったらどのようなことが起こり、どのように対処できるのかということ想定ゲームという形で行いました。23名の参加（男性8名、女性13名）で、会員外の方も2名参加でした。

本部女性委員会との連携としては、平成25年度より北海道建設部建築指導課から（一社）北海道建築士会が受託している、地域における住教育実践推進業務『建築士による家庭科

住教育出張講座』の実働部隊として活動しています。昨年は、過去の実績から女性会員が担当しておりましたが、今年度からは男性会員も動き出しています。

これは、いっせいで教育最後の機会である高等学校の、家庭科住居分野の授業内容充実を目的に出張講座を行うものです。単発のイベント的に行うのではなく、通常授業の2時間枠へ、7名（40名クラスの場合）の建築士が出向き講義と実習指導を行います。「私らしい住まいの設計はじめての一人暮らし」の間取り計画を通し、住まいに関心を持ってもらい、賢い消費者になっていただくのが目的です。その中で、建築分野に興味を持った生徒には、今後の進路選択のきっかけとして捕らえていただければ、将来の士会活動の仲間

にまで発展するかもしれません。本来、出張講座の派遣講師は、その学校の所在地の支部会員に担っていただくのが理想ですが、対応できる人数が少なく、札幌近郊の会員が西へ東へ走り回っています。その中には、昨年の建築士会会員向け講師養成セミナーの受講者もいらっしゃいます。今年、出張講座開催高校への授業参観の機会をつくろうと考えていますので、ぜひ参観の上、多くの方に派遣講師として参加いただければと思います。

どちらかというと、外向きの活動が多い小委員会ではありますが、建築士会の認知度アップにもつながります。STREETなどで広報させていただきますので、ぜひ一緒に活動の輪を広げて行きましょう。

## まちづくり委員会委員長新任挨拶

まちづくり委員会 委員長 細 畑 光 明



本年度より、まちづくり委員会の委員長に新任させていただきました、細畑光明です。宜しくお願い致します。

本委員会は様々な角度、切り口から、札幌市民の皆様と交流を深めて行けますよう、活発な委員会活動を目指していきたいと思っています。又、それぞれの委員が、基礎を学び、知識を高め、まちづくりに係っていける事を目標に頑張っていきたいと思っています。

私一人としても、委員会活動を通じて、今までに感じる事が無かったこと、考え無かった事など様々な体験をさせていただきました。実際にその土地へ行き、携わった人達のお話を聞かせて頂き、歴史を知り、根付

いた文化等を感じることが出来ました。今後もより一層、新しい風に向かって頑張りたいと思います。

札幌支部におきましては、まだまだ新しい委員会ではありますが、皆様により認知していただけるよう、各委員の力をかりまして、歩んでいきたいと思っています。都度、ご意見、アドバイス等がございましたら、当委員会にお寄せ頂ければ幸いです。

事業計画として今年も札幌の景観バスツアー（西区・手稲編）を7月5日（土）午前9時30分～予定しております。大型バスを貸し切ったのツアーです。実際に現地に足を踏み込み、景観資産に触れ、その地域の

方のお話を聞き、体験できるものです。募集の際には是非、参加していただけますよう宜しくお願い致します。

又、まちづくりフォーラムを9月に、まちづくりセミナー「景観とライティング」を11月にと準備を進めています。他、セミナー等の企画も検討中でございます。

新しい試みとしまして「札幌市資料館リノベーションアイデアコンペティション」に4月末に応募させて頂きました。

景観バスツアー等、各委員会の皆様にはお忙しい中、お手伝いをお願いする事と思います。ご協力の程、お願い致します。

## 事業委員会委員長新任挨拶



事業委員会 委員長 菊 地 義 紀

今年度より事業委員会の委員長を拝命致しました。宜しくお願い致します。

早速ですが3月に第1回目の委員会が行われ、本年度の事業計画について討議を致したところでございます。今期は例年開催している2級建築士の受験者講習会に併せて、前年度まで本部で開催していた1級建築士の受験者講習会も札幌支部が主催として事業委員会が担当することとなりました。その他、4回に渡るBIM講習会を後援としてお手伝いをさせていただきます。又、メイン事業としては「CLT（直行集成板）工法」・「住宅省エネルギー基準改正」・「福祉等の異業種関係者から見る建築」等の講習会を今期の新規事業として現在企画検討を進めております。

昨今、全国的に会員が減少する中、我々建築士会としては一建築士に対して「益」に繋がる情報の提供並びに技術向上の場を与え、会員増加に結び付けていくことが必要だと考えます。それ故に時代背景に見合った事業の企画も当然必要ですが、10年、20年先の時代を見据え、一般的には広まっていない工法や海外での技術情報等、日本ではまだ難しい部分があるかも知れませんが、発信することによって焦点を置くのであれば、時代を先取りした事業の企画も重要だと考えております。

又、委員会の活動に賛同していただけでも募集中です！私たちと一緒に楽しい活動をしてみませんか？有志と共に建築業界の未来を明るくするべく、是非「ギバー（giver）」

になって頂きたいと思います。

「起きている時間の大半を仕事に費やしている私たちが、ほんの少しでもギバーになったら、もっと大きな成功や、豊かな人生や、より鮮やかな時間が手に入るだろうか。それは、やってみるだけの価値はある」

ーアダム・グラント

「与える人」こそ成功する時代ー

最後に、事業委員会の活動が建築士会会員の皆様は基より、未会員の建築士そして消費者の皆様方にも有益なものとなり、願わくは北海道経済の向上に結び付く活動を行っていく所存でございますので、今後も事業委員会へのご理解とご協力をお願い申し上げます、就任の挨拶と致します。

## 交流委員長新任挨拶



交流委員会 委員長 平 井 香 希

この度、青木前委員長に代わり交流委員長を拝命致しました。以前は青年委員会のお手伝いをさせて頂き、一昨年度前から交流委員会も兼務し参加させて頂いておりました。

他委員会や正会員、準会員並びに一般の方々などとの連携が重要となってくる交流委員を運営していくにあたり、その責任の重さを痛感しています。そもそも建築士会に入会した当初も、花見やキャンプなど他業種の方々と交流を交えながら、建築士会という会に面白みを持ったのがきっかけでした。

今回交流委員長を引き受けたのも、普段他業種との交流の場がうまく見

付ける事が出来ない方々や、相談しても誰に相談していいかわからない方々が思いの外、多く居る事を知り、交流委員会を通して、「新しく何か発信できるのでは？」、「人と人を繋げるきっかけを作れるのではないか？」と思ったのが、この交流委員会の委員長を引き受けた理由の一つであります。

本年度は、事業計画を2月にまとめ大筋は例年通りの、定山溪1泊の旅行会、ゴルフ大会、パークゴルフ大会等の行事を予定しております。しかしながら、建築士会全体の会員数減少の問題も視野に入れ、我々が建築士会とこれから入会を検討され

ている方々の架け橋になり、建築士会の広報となるような存在でありたいと思っています。また、会員及び準会員様及び一般の方々の参加を促すと共に、どなたでも参加しやすい企画立案及び事業の方向性を再度見直していきたいと考えております。また、参加された方々が前文でも書いたように同業・他業種問わず、人と人との繋がりに面白みを感じて頂けるイベントを考えていきたいと思っています。また、今まで交流委員会の企画では無かった事業なのですが、今年は天狗山トンネル工事現場の建設途中の模様を一般参加者様も募り、バスで見学するイベントを交流委員

会主体の事業として計画中です。今一度私ども委員会では出来ないようなイベントとして他委員会との協力のもと進めていきたいと思っています。

また、我々の委員会に限らず建築士会札幌支部では、皆様から「こんなイベントを通じて他業種と交流を

図りたい、こんな企画で多くの参加を募りたい」などのご要望を頂ければ、それについて前向きに検討する場を設け、新規のイベントとして実現出来ることもあると思いますので、是非是非お声を頂ければ幸いです。違う境遇、違う職種どんな形であれ、誰もが仲間と呼び合える人が集まれ

ばそこには必ず交流が生まれます。その交流の果てには絆という、もっとも強い信頼関係が築けるものだと思います。私もその関係を皆様と一緒に築いていけたらと思い就任の御挨拶に代えさせていただきます。

## 情報委員長新任挨拶

情報委員会 委員長 森 田 ゆう子



今期より情報委員長となるにあたり責任の重さを実感しております。

今まで数年間、情報委員会の一委員として活動してきたものの、柳山前委員長や私が委員となった頃の内海委員長の仕事振りを思い起こすと、やや肩の荷が重くなります。

が、引き続き「STREET」「街」を滞ることなく発刊して行くのはもちろんの事、諸先輩が敷いてくれたレールのおかげで今はすっかり軌道に乗った、「札幌支部ホームページ」

の拡充も図って行ければと思っています。

また、「STREET」におきましては、各委員会の皆様、発行時期に合わせた情報提供のご協力には心より感謝しております。今しばらくは皆様に頼りにさせて頂く事になりますが、前委員長のような細やかな対応が出来るよう努力する所存です。

今は会員向けの発信がメインではありますが、建築士の資格をもつ方、建築士を目指す方が「建築士会に入

ろう」と思える「旨み」を発信することもひとつの目標です。

まだまだ手探り状態ですが、新旧一丸となって建築士会を盛り立てて行ければと思っています。世代を超えて発言しあえるのが建築士会の魅力だと思いますので、セミナーやイベントなどの情報発信だけではなく、個人が日頃感じている事やつぶやきでも、気兼ねなく情報委員会にお寄せ頂ければ幸いです。

## 新任あいさつ

専攻建築士委員会 委員長 東

道 尾



このたび、河村前委員長から引き継ぎました東 道尾（ひがし みちお）です。よろしくお願いします。

11年前の2003年（平成15年）5月に「専攻建築士」の登録説明会がありました。会場はかでの2・7の会議室で、講師は牛田さんだったような…記憶をしています。

すでにCPDの登録をしておりましたが、日常の業務に特段影響するわけではなく、少々負担に感じていた頃でした。登録に必要な要件や申請書の説明を聴くうちに、結構手間がかかり負担が重いと感じて、この

時は申請を断念しました。～ごめんなさい！～

現在、委員会は「統括設計部会」としての活動がメインになっています。年10回の委員会と6回のセミナーを開催しています。セミナーの内容は、実務に関連するもの、専攻建築士の登録に関わるものなど、委員の意見交換で決めています。

建築士会では会員増強が大きな課題となっておりますが、専攻建築士も新規登録者および更新者が減少しているのが現状です。登録の条件緩和、申請手続きの手間軽減、申請手

数料の負担軽減等の見直しをすすめているようですが、札幌支部では昨年の新規登録者が3名。今年は1名でした。専攻建築士は、消費者の立場にたち、建築士の仕事（専門分野の責任の明確化）を知っていただく自主的な制度です。会員の皆様には率先して登録をお願いいたします！また、北海道建築士会では専攻建築士制度普及促進補助金があります。詳細はホームページをご参照ください。最近気が付いたのですが「建築士賠償責任保障制度（けんばい）」の保険料が割引になります。こちら

も条件等詳細は保険の資料をご参照ください。士会活動のなかで、他県の会員との交流機会で名刺交換をすると、専攻建築士と明記されている方を多く見かけ、ここから話題が広がることもあります。毎年春に募集しているファイルは7月のビールパーティーの会場でパネル化として展示し、参加者の目に止めていただい

ております。ホームページ掲載についても、より精度を上げて見やすいものにしていくところです。最近のセミナーでは、会員以外の建築士、他の専門職にも間口を広げて、参加を呼び掛けています。セミナー終了後の懇親会では、次の企画につながるような情報交換の場にもなり、回を重ねるごとにメンバーの顔ぶれが増

え、いい刺激をいただく時間となっております。まずは興味のあるセミナーがありましたら、是非ご参加ください。毎月発行の支部ニュース「STREET」には一番先に情報を載せていただいております。皆さま、どうぞお見逃しなく！

## 青年委員長 再任のご挨拶

青年委員会 委員長 松 本 純



昨年、一昨年に引き続き、青年委員長をさせていただきます松本です。会員の皆様には前任期中、青年委員会の活動に沢山のご指導、ご協力を頂きました事をお礼申し上げます。今期も、社会及び建築業界、建築士会への貢献をする考えでおりますので、更なるご指導、ご協力をお願い申し上げます。

青年委員会では、活動方針の基本は「スキルアップ」「仲間づくり」「地域貢献」のキーワードを継続していますが、今期は「自主的に楽しむ！」事を加えて、委員会での発言や、各事業におけるアイデア等を各委員がどんどん出して、積極的に参加して欲しいと思っています。

「スキルアップ」活動は、毎年3回のセミナーを開催していて、見学や作業、体験を折り込み、毎回多数の参加を頂いています。セミナーを通じて、講師の方や会員同士、ある

いは非会員とも交流が出来ればと考えており、今年も楽しめるセミナーを企画しています。

「仲間づくり」活動では、今年はいこれまで行って来た「若手建築士の交流会」をリニューアルして、一層新規会員の入会に繋がるものを目指しました。今年もある程度の成果が出て、新規入会者や委員会への参加者も増えました。今後、より認知度と入会率が上がるものになる様、来年に向けて検討を行って行きます。

「地域貢献」では、本年から新しい展開を進めており、子供たちと、建築や景観まちづくりを遊びながら考え、楽しめる企画が進行中です。幼いうちに建築や景観、まちづくりの楽しさを感じる事により、将来建築の道に進む子供が増えたり、自分たちの住むまちの事を、真剣に考えられる様になればと思っています。

この地域貢献の活動については、

若手のメンバー中心に進めていて、少しずつ充実させて今後数年継続が可能な活動として出来るよう検討しています。

このような活動を行うために委員会を開催して議論したり、悩んだりしていますが、現委員会の雰囲気は、真剣な事を笑いを交えながら明るく楽しく出来ていると考えています。一人一人の個性があり、それらが上手く組み合わせさっての結果であり、今後も続けて行くことによって、それに呼応して入会者や委員会への参加者が増え、また新しい活動に繋がるはずで

です。青年といっても、およそ45歳までのメンバーで構成されています。40代の方、まだまだ大丈夫ですよ！そして、20代や30代の方は、よりウェルカムです。ご本人やお知り合いの方で委員会に参加したい方、どんなお待ちしています。

# 気になる建物 紹介し隊

## 古民家Gallery「鴨々堂」

情報委員 柳 山 美保子

中島公園のわきを流れ、すすきのをクランクしながら創成川の始まる南6条西1丁目までの2.5kmが「鴨々川」と呼ばれています。

その「鴨々川」の南7条西2丁目に架かる「園生橋（そのうはし）」のたもとに建つのが古民家Gallery「鴨々堂」です。築90年という大正末期に建てられたこの木造建物は、ここ3年ほど空き家で、解体寸前でした。

たまたまこの古い建物に目を付けた古民家鑑定士の石川圭子さんは、なんとか保存したいという思いで、知り合いの大工さんたちの協力を得て、手作業で補修・改修をし、古民家Gallery「鴨々堂」として甦らせたのです。昔の写真を見ながら、モルタル仕上げだった外壁も、元の下見板張りに再現し、内部も出来るだけそのままの状態を生かしています。当時は芸者さんの置屋だったとい

うこの建物は、2階に4帖ほどの和室があります。芸者さんたちはここで着物を着替えたり、くつろいでいたのでしょう。趣きのある箆笥はオーナーのご両親が使っていたもの。ここが居場所だったかのように馴染んでいます。

古材を使い塗装も自分たちで塗り、LPレコードケースは天板をくり抜いてシンクをはめ込み、流し台として生まれ変わりました。改修費用は



本当に最低限の予算でまかなえたそうですが、それもオーナーさんが解体するつもりでみていた予算を提供してくれたそうです。昔の建物に戻り、古民家 Gallery として生まれ変わった建物に、オーナーさんも大変喜んでいただいたそうです。

古民家の保存からスタートした「鴨々堂」は、15坪のギャラリース

ペースを貸出していますが、個性的な作品ばかり展示されています。店主の石川圭子さんは、建物が古いだけにこの空間に合う作品をセレクトしているそうです。どこのギャラリーの方も作品に込める想いは同じではないでしょうか。「ここからピカソを生みたい！」と。

入場も無料で気軽に入れますし、

今時の若者達は夜遅くまで（朝まで？）長居するそうです。古民家ゆえの居心地の良さなのでしょう。

元々古民家を保存するのが目的で活動しているため、そちらの仕事の方が大半を占めているそうです。札幌市内での相談件数も多く、保存するための補修の仕方などを指導し、古民家保存のために尽力されています。



お問 い 合 わ せ

古民家 Gallery 鴨々堂  
札幌市中央区南7条西2丁目2

- 店主：石川 圭子
- TEL：011-596-7929
- e-mail：master@kamokamo-do.com
- HP：http://kamokamo-do.com/



# 建築確認申請の相談について

## 札幌市都市局建築指導部建築確認課

札幌市に確認申請を提出される場合、事前相談を建築指導部建築確認課（本庁舎 2 階南側）の窓口において行っておりますが、事前相談の円滑化を図り、審査業務等を迅速に行うために見直しを行い、平成26年 2 月より運用を開始しております。

当該事前相談に関する内容につきましては、札幌市の建築指導部ホームページにも掲載しておりますのであわせてご覧ください。

(<http://www.city.sapporo.jp/toshi/k-shido/kakuninn/kakuninn-top.html>)

なお、指定確認検査機関に確認申請を提出される方または提出を予定されている方は、それぞれの機関に直接ご相談ください。

### 相談受付日時

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 相談日  | 月曜日～金曜日（祝日および12月29日～1月3日は除く） |
| 相談時間 | 午前 9 時～12 時                  |

### 質問事項について

|   |              |                                                          |
|---|--------------|----------------------------------------------------------|
| 1 | 質問事項をあらかじめ整理 | 効率的に協議を行うために、あらかじめ質問事項を整理しておいてください。                      |
| 2 | 相談内容を具体的に    | 漠然とした質問はお答えすることができませんので、具体的な質問箇所を示してご相談ください。             |
| 3 | 関係条項等を事前に確認  | あらかじめ質問に係る関係条項をご確認ください。<br>（「〇〇法第〇条第〇項の〇〇の規定について」など具体的に） |

### 事前相談について

|   |                 |                                                                                              |
|---|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 事前に連絡           | 事前相談でお越しになる前に、電話にてご連絡ください。<br>直接お越しいただいた場合、長時間お待ちいただく場合や当日の対応が難しい場合がありますのでご了承ください。           |
| 2 | 「確認申請・相談シート」を作成 | 事前相談をご希望の方は、「確認申請・相談シート」（別紙参照※）に計画内容や協議事項等を記入し、提出してください。                                     |
| 3 | 必要な資料を用意        | 協議内容に応じ、必要と思われる資料（配置図、平面図、立面図等）を準備してください。<br>また、条件（敷地及び周辺の状況、都市計画等の各種土地利用規制等）の確認もあわせてしてください。 |

※「確認申請・相談シート」につきましては、札幌市の建築指導部ホームページよりダウンロードできます。  
(<http://www.city.sapporo.jp/toshi/k-shido/kakuninn/soudan/jizensoudan.html>)

## 別紙

## 確 認 申 請 ・ 相 談 シ ー ト 平成 年 月 日

|         |                          |    |       |     |        |    |    |        |      |    |                |                |
|---------|--------------------------|----|-------|-----|--------|----|----|--------|------|----|----------------|----------------|
| 対 象 地   | 札幌市 区                    |    |       |     |        |    |    |        |      |    |                |                |
| 相 談 者   | 事務所名等                    |    |       |     |        |    |    |        |      |    |                |                |
|         | 担当者名 (TEL) - - (FAX) - - |    |       |     |        |    |    |        |      |    |                |                |
| 建物概要    | 主要用途：                    |    |       |     |        |    |    |        |      |    | 構造：            | 造              |
|         | 階数：地上 階 地下 階             |    |       |     |        |    |    |        |      |    | 延べ面積：          | m <sup>2</sup> |
| 道 路     | 東面                       |    | 南面    |     | 西面     |    | 北面 |        | 非    |    |                |                |
| 用 途 地 域 | 一低                       | 二低 | 一中高   | 二中高 | 一住     | 二住 | 準住 | 近商     | 商業   | 準工 | 工業             | 工専 指定なし        |
| 防 火 地 域 | 防火地域                     |    | 準防火地域 |     | 法22条区域 |    |    | その他の地域 |      |    |                |                |
| 工 事 種 別 | 新築                       |    | 増築    |     | 改築     |    | 移転 |        | 用途変更 |    | 大規模の修繕 大規模の模様替 |                |
| 相 談 内 容 | (具体的な内容及び関係条文を記載してください)  |    |       |     |        |    |    |        |      |    |                |                |

- ・ FAXで送付される場合は、相談日時の調整等のため、必ず下記の連絡先にご連絡ください。
- ・ 相談内容により、当日に回答できない場合があります。

連絡先：札幌市都市局建築指導部建築確認課

TEL：011-211-2846

FAX：011-211-2823

## 電話での相談(問い合わせ)について

電話による相談(問い合わせ)では、誤解を生じる場合がありますので、ご相談は原則窓口での対応とさせていただきます。

## その他

ご相談の内容によっては、相談当日に回答できない場合があります。

事前協議後、札幌市建築主事への建築確認申請までに期間が空く場合は、申請前に再度ご相談ください。

## 問い合わせ先

札幌市都市局建築指導部建築確認課

☎：011-211-2846

# 青年のページ

青年委員会 HP : <http://h-ab.com/sapporo/seinen/> 青年委員会のブログ : <http://hokkaido-sapporoshibu-seinen.blogspot.com/>

## 江別レンガ工場跡の利活用ワークショップ

青年委員 柴山立行

去る4月19日、道央ブロック圏の青年建築士らによる第1回道央ブロック協議会が行われました。道央ブロック協議会は道央圏の各支部による輪番で年3回開催され、そのうち1回は札幌支部が主催となります。

昨年、江別支部と札幌支部が統合したこともあり、今回は江別市が協議会場として選定されました。

### 江別市の歴史的建造物保存事業

協議会の前半は「旧レンガ工場利

活用ワークショップ」と題する研修会が行われました。江別市においては明治24年から120年以上もの窯業の歴史がありますが、時代の流れとともにレンガ造の建物や窯業工場も少しずつ姿を消しつつあるといわれています。研修会では平成10年に自主廃業した窯業工場で、平成12年に江別市が歴史的建造物保存活用のために購入し、保存事業を続けている「旧ヒダ工場跡」の活用方法を検討するためにワークショップを行いました。

### レンガ工場跡を見学

ワークショップではまず、江別市が所有しているレンガ造の旧ヒダ工場内を見学し、周辺環境の状況や現在の保存状況および活用状況等について調査を行いました。旧ヒダ工場はレンガ造（増築部は鉄筋コンクリート造壁部分煉瓦積）、地上1階建、延べ1291.03㎡で、昭和26年に新築された建物です。建物内は約30坪～140坪程度の5つのエリアに分かれており、場内の一部は江別市のアン

▼旧ヒダ工場の南東側外観



▲旧ヒダ工場の北西側外観



アンテナショップ出入口廻り

テナショップとして活用されていますが築後相当の年数が経過しており、構造上の課題もあることから大部分は未活用状態でした。

また、敷地内にはシンボリックなレンガ造の煙突があり、江別窯業の歴史を感じることができます。この煙突は、JR野幌駅の車窓からもよく見えることから江別市民にとって親しみのある建造物だということでした。

## 事業収支計画まで提案

調査を終えたワークショップの参加者は協議会場に戻り、6グループに分かれて、

- ①調査の感想・問題点
- ②利活用提案コンセプト
- ③ゾーニング・耐震改修計画
- ④収支計画
- ⑤発表会

という流れに沿って旧ヒダ工場の利活用案を考えました。

特に今回は収支計画シミュレーションにまで踏み込むことで、より具体的に持続可能な事業計画案を江別市に示すという試みを行いました。飲



レンガ積の外壁  
—アンテナショップ廻りは補強されている—

食テナントを誘致する案や子育て世代の交流の場とする案などが出て、短時間ではありましたが6グループそれぞれが様々な視点でユニークな利活用提案を行いました。

収支計画シミュレーションについては、残念ながらほとんどのグループで黒字化が困難という厳しい判定がでてしまいましたが、参加者にとっては事業主体の立場から考えるという今回の研修スタイルを新鮮に感じたのではないのでしょうか。

## 協議会を終えて

協議会の後半は各支部の活動報告や、次回以降の道央ブロック協議会のスケジュール等について話し合われました。また、協議会終了後の懇親会では江別市の建築行政担当の方々と交えた楽しいひとときを過ごすことができました。

懇親会の中では研修会の表彰式も行われ、会場は大いに盛り上がりしました。

私自身にとってもうひとつの出来事は、今回出席された江別市職員の方が出身校の後輩だったことです。十数年ぶりにお会いできましたが、私の現在の仕事とも直接関係する部門の業務を担当されているとのことで、建築士会の活動がなければこのような会いは無かったかも知れません。

このように私にとって建築士会の活動は、単に仕事をしているだけでは得られない貴重な経験をしたり、普段なかなか出会うことのないような仲間との交流を持つことのできる場であると実感しています。今後とも可能な限り様々なイベントに参加したり、スタッフとしてお手伝いをさせていただきたいと思います。



ワークショップでの発表の様子

# HUGー避難所運営ゲームー 研修会

## 体験レポート

情報委員会 森田 ゆう子

最近時々耳にするようになった「HUG」。既に体験した方もいらっしゃると思いますが、聞いた事はあっても未体験の方がほとんどではないでしょうか？

「HUG」とは「避難所 (Hinanzyo) ・運営 (Unei) ・ゲーム (Game)」の略で、平成19年に「避難所HUG」として静岡県が開発した防災ゲームで、その名前には英語の「HUG～抱きしめる」と言う意味も込められています。建築士会内では釧路支部のメンバーが中心となって取り組みを始め、その後女性委員会でも建築士会に広めたいという趣旨で活動を進めています。また北海道や札幌市でも防災教育支援としての取り組みが見られます。

ゲームの概略としては避難所（学校など）に見立てた平面図に、避難者をどれだけ適切に配置出来るか、そこで起こる様々な出来事にどう対

応していくかを模擬体験する内容となっています。

東日本大震災がまだまだ記憶に生々しいものの、当時テレビで毎日映し出されていた避難所の様子も思い起こす事が少なくなっているのではないのでしょうか。避難所生活の大変さは頭では分かっているつもりでも、どこかリアリティがなく、なかなか自分の身に置き換えて考える事は難しいものです。しかし、日本は地震大国。この北海道でも南西沖地震や十勝沖地震など過去に大きな被害を受けた経験があります。また、地震のみならず噴火による災害などもありました。いつ自分の身に襲い掛かるか分からない災害。避難所生活を送る人々の気持ちを理解する事が出来るのか、自分が避難所にいた場合何が出来るのか、何が大切なのか、建築士として必要な体験なのではな

いかと思い参加しました。

初めての参加で説明しきれない部分も多々ありますがまずはご報告。

4月12日、札幌市北農会館にて本部女性委員会の本間委員長を講師に迎え、札幌支部総務委員会女性小委員会が中心となり、約30名が3グループに分かれて開始されました。具体的な方法としては「読み手」が、人に見立てた「避難者カード」と、刻々と変わる避難所の状況を書いた「イベントカード」を坦々と読み上げ、それを参加者が話し合いのうえ、どの場所に居てもらうのか、物資が届いたり何かを要請された時にどのように判断するのかを決めて行きます。通常のグループ討議と違うのは、進行役はおらず全て我々の判断で決めて行く事。「避難者」は老人、乳幼児、妊婦、外国人、車椅子の人、持病を持つ人など様々な人が次々と



本部女性委員会  
本間委員長



押し寄せ、ライフラインもほとんど途絶えています。そんな中、突然運び込まれる物資はどう管理するのか、何を優先するのか、普段の生活では考えも及ばない事に素早い判断を迫られ、頭はフル稼働です。

本間委員長からは、現実の避難所には音や臭いの問題もあり、映像では流れて来ない問題も山ほど抱えている。尋常ではない状況で改めて考える男女の役割や、人として、また建築士（会）として出来る事は何かなどの投げ掛けがあり、ゲームを通して見えてくる問題の一部として、以下のコメントもありました。

- 通路の確保は出来ているか
- ペットはどのように扱うのか
- 物資の管理、置き場は大丈夫か
- 学校の場合、階による使い分けは本当に良いのか

- 学校として再使用する場合を想定出来ているか
- 北海道の場合は雪や寒さの問題もあり、避難場所として体育館は良いのか…等々

現在は備蓄品を置く避難所が多いとの事で、防災への意識はかなり高いように思いますが、時間の経過と共にその意識は希薄になりがちです。このゲームも繰り返す事によって見えてくるものがあり、その必要性は大きいと委員長もおっしゃっていました。確かに各グループ毎、避難者や物資の保管場所、災害本部などかなりの相違が見られました。各々の考え方が全く違うため当然の結果とも言えますが、甚大な被害をもたらす災害時においては平常心を保つのが難しく、リーダーシップの重要性

が避難所生活を大きく左右する鍵ではないだろうかと感じました。今回のゲームでは「とりあえず全てを受け入れるグループ」「避難者の状況により受け入れを拒否するグループ」や「机上のことなのでどこか冷めていた」と言う人、「避難者の機転に期待」する人、「感染病の恐怖」等々、百人百様の意見がある中、果たして実際にリーダーとなれる人がその地域にいるのか？という問い掛けもありました。また、避難所に来ていない人の安否確認も重要です。不安を挙げればきりがありませんが、静岡県県のホームページを見ると東日本大震災で「避難所HUG」が活かされたとの報告もあります。このゲームを防災ツールのひとつとして皆さんも町内会や学校、セミナーなどに活用してはいかがでしょうか？

## 問い合わせ先

北海道建築士会本部事務局 (TEL: 011-251-6076 / FAX: 011-222-0924)

ホームページ: <http://h-ab.com/>

e-mail: [info@h-ab.com](mailto:info@h-ab.com)



本ゲームは  
1セットで  
4グループが  
プレイできます

道本部  
女性委員会で  
2セット  
購入済みで  
貸し出しを  
しております



# 金丸座で こんぴら歌舞伎を観る

半田 健一



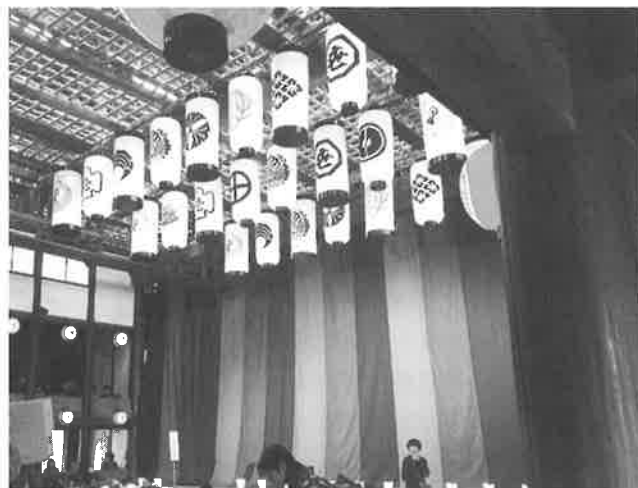
琴平町の金刀比羅宮門前に有る「金丸座」は、江戸末期の1835年に建てられ、現存する中では日本最古の木造芝居小屋で国の重要文化財として指定されています。

建てられてからは、幾多の名称の変更や、芝居小屋から映画館等への用途変更が行われましたが、1970年に重要文化財の指定を受けて移築復元が行われ、2002年には「平成の大

修復」として耐震補強を行い、広間に有った4本の鉄柱も取り除かれました。

この金丸座では1985年から「四国こんぴら歌舞伎大芝居」が春の定期





公演として行われるようになり、今年の第30回記念となる市川染五郎主演の「女殺油地獄」を見て来ました。

あらすじは、勘当された油屋の放蕩息子与兵衛が借金の返済に困り、同業の女将お吉に金を借りに行くが断られ、かっとなってお吉を惨殺し店の金を盗み、借金を返して遊び歩くうちに犯行が露見し捕まってしまうというストーリーです。

一部・二部は台詞が理解出来ない部分もありこんな物かと観ていましたが、三部の油屋でのお吉殺害のシーンから、主演の染五郎とお吉役壺太

郎の迫力ある演技に見入ってしまいました。店の中で二人がもみ合ううちに油の入った瓶が割れ、床中が油だらけ、その中を殺そうとする与兵衛と殺されまいと逃げるお吉、二人とも油にまみれ滑って転び、芝居なのか実際に滑って転んだのか？ すっかり歌舞伎の世界に入ってしまった。

建物自体が江戸時代からの雰囲気を保ち、照明も電気の明るさを抑えて有り、場面に応じて栈敷席の後ろ戸を障子にして明るくしたり、板戸で暗くしたりと、昔の芝居見物が感

じられます。

金丸座の建物自体はあまり大きく感じませんが、1・2階合わせて740名収容の規模、二週間の公演は満員の観客が続いているようです。

今回は舞台に向かって右手後方の栈敷席でした。舞台を見るには2階席の柱が少し邪魔になりますが、1間×1間半に6人（今回私の席は4人で余裕が有りました）、座布団1枚で休憩を入れても3時間は座っているのが辛かったです。次回の歌舞伎見物は東京の歌舞伎座の椅子席で見たいです。

## 新入会員紹介

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 武田 安充 | 丸彦渡辺建設(株)            |
| 澤田 浩伸 | 丸彦渡辺建設(株)            |
| 村上 学  | 丸彦渡辺建設(株)            |
| 江村日奈子 | パシフィックコンサル<br>タンツ(株) |
| 庄司 雅美 | (株)ホクテイ建築事務所         |
| 林 甲太  | (株)構建設計事務所           |
| 榮前田英樹 | (株)構建設計事務所           |
| 成澤 義孝 | 伊藤組土建(株)             |
| 佐竹 照雄 | 北海道警察本部              |
| 引地 慎雄 | 堀松建設工業(株)札幌支店        |
| 媚山 拓  | (株)田辺構造設計            |
| 松岡 祐  | (株)田辺構造設計            |
| 大岳 利光 | (株)田辺構造設計            |
| 田辺 勝昭 | (株)田辺構造設計            |
| 大槻 晃祥 | (株)田辺構造設計            |
| 蝦名 幸一 | (株)丸大建産              |
| 姉崎寿美恵 | 声月建築工房               |
| 伊藤 誠泰 | (株)鈴木東建              |
| 武内 一郎 | 日本都市設計(株)            |
| 沼田 亮  |                      |
| 北名 直史 | (株)札幌工業検査            |
| 中山 眞琴 | (株)NA ナカヤマアー<br>キテクツ |
| 柴田 俊一 | 丸彦渡辺建設(株)            |
| 中田 光治 | (株)東亜エンジニアリング        |
| 川島 亮  | (株)ドーコン              |
| 伊藤 喜男 | (有)ウィル企画             |
| 熊坂 大介 | (株)アエルホーム            |
| 池田 裕雅 | 北海道庁建設部              |
| 高橋 洋平 | (株)フロンティア札幌営<br>業所   |
| 猿渡有希恵 | (株)荒川建築設計事務所         |
| 三澤 直人 | パシフィックコンサル<br>タンツ(株) |
| 鈴木 俊一 | (株)アーバンアート           |

## 編集後記

今年度の役員・理事改選にともない、鈴木基伸支部長再任のもとスタートしました。

他に再任された方もいますが、新役員の方たちと同様、私もまた新たな気持ちで建築士会活動に取り組んでいきたいと考えております。

さて、今回の記事「気になる建物紹介し隊」では個人の熱い気持ちから古民家を再生された「鴨々堂」の紹介。青年のページでは江別レンガの「旧ヒダ工場跡」の活用法を検討する為のワークショップが紹介されています。

最近の新聞の情報で、札幌駅北側現石蔵建物「ギャラリー林」一带にMS建築計画、北5条通り伊藤邸敷地内に賃貸MS建築計画の記事がありました。慣れ親しんだ景観がまた一つ変わるのを残念に感じている一人ですが、デザインの力で新たに札幌の素敵なランドスケープになる事を願っております。

(情報委員 後藤朋恵)

## 支部だより「街」

2014.No.2

平成26年6月発行

発行一般社団法人北海道建築士会札幌支部

〒060-0042 札幌市中央区

大通西5丁目11番地 大五ビル6F

TEL (011) 232-1843

FAX (011) 222-0924

### 情報委員会

委員長／森田ゆう子

副委員長／宮川 耕介 柳山美保子

委員／内海 純一 安達あけみ

那須 豊治 首藤 一弘

星野 里英 爪林 雅行

岩浪 次郎 川原 昌彦

後藤 朋恵 片岡 哲二

印刷ー中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来

3条1丁目1-34

TEL (011) 781-7501

FAX (011) 781-7516